

- 10月27日現評学習交流集会を開催
- 2013現評本部役員選挙の実施

# 現 評

## 現評学習交流集会を開催

### 「セカンドライフ」を見据えた 生涯設計・貯蓄の必要性について学ぶ

10月27日(土)、アイリス愛知において、32名が参加して、「2012現評学習交流集会」を開催しました。

メイン講義は、東海労働金庫・営業部の深見正弘さんを講師に「あなたの人生・生活設計に不安は」と題するライフプランセミナーを受けました。

また、組合本部から、「県人事委員会勧告と賃金確定闘争の取り組み」「職場要求・人員要求」について説明を受け、講義終了後には交流会を開催し、参加組合員の親睦を深めました。

#### 家族旅行には 旅行プランが必要なもの

ライフプランの必要性について、深見さんから「は、次のように説明されました。

「旅行をする時にたとえば、①行き先・目的を考える↓②人生の目標を描く、③日程を考える↓④生涯を見据える(平均寿命・男79・44歳、女85・90歳)、⑤行き方を考える↓⑥生き方を考える、⑦旅行へ出発する↓⑧具体化させる。」として旅行について、綿密な計画をする人もいれば、大雑把

に考える人もいる。一切何も考えず行き先も決まっていな一人旅(非日常)ならいいが、家族旅行なら、やはり旅行プランは必要である。」

#### 人生には お金の貯め時がある

①まず現状の把握として、現在の資産(預金等)と負債(ローン等)の状況をつかむ。②自分または子どもの将来のイベントを大まかにシミュレーションする。③3大イベント(結婚資金・教育資金・住宅資金)と定年後のセカンドライフ(老後資金)

に向けた計画的な資金計画を立て、イベントの間の貯め時にしっかりと預金しておく。④ローンを利用する場合、借りられる金額ではなく、安心して返せる金額の見極めが大切。との説明があり、その後は、結婚費用や教育費の相場、住宅ローンの資金計画のポイント、公的年金のしくみと受取り額、財形貯蓄制度など個別のテーマについて説明を受けました。

参加者からは、財形年金の仕組みや年金制度等の質問をはじめ、「60歳以降から平均寿命まで総生活費の総計として、夫婦2人で8,200万円とのシミュレーションがあるが本当か」という質問が



出され、「モデルケースでその額。ただし年金支給総額で5,400万円あり、差し引きすると2,800万円。ただし年金制度が今後、良くなるイメージはないので、現時点でも3,000万円は、最低ラインとみていただきたい」と答えていました。

#### 民間経験者は 年金加入記録の確認を

日本年金機構から送られてくる『ねんきん定期便』について、特に民間

経験を持っていての方は、年金加入記録に漏れがないかチェックしてほしいと強調されていました。ライフプランセミナーは、現評の学習会としては、初めてのテーマでしたが、「個別の具体的な相談については、是非『ろうきん』に相談を」とのことでした。

#### 行(二)切替後の 新たな取り組みを

学習会終了後の交流会では、「給料表切替交渉の前にライフプランセミナーを受けていたら、合意しなかったのに」との声も聞かれ、講義の内容を家族で話し合った場合、小遣いの将来への漠然とした不安とともに、今後の現評組合員の結集と新たな取り組みに闘志を燃やす参加者でした。

#### 2013現評本部役員選挙の実施

- 1 選挙の期日  
2012年11月26日(月)
- 2 選挙の事由  
任期満了による選挙
- 3 役員の数  
議長 1名 副議長 2名 事務局長 1名  
常任委員 2名
- 4 立候補の提出期限・受付場所  
提出期限 2012年11月12日(月)  
受付場所 組合本部内選管事務局
- 5 開票日  
2012年11月30日(金)
- 6 その他  
立候補に必要な書類は選管事務局で配布



#### 現評第8回定期大会 代議員の選出をお願いします

日時 2012年12月8日(土)午後3時30分～  
会場 アイリス愛知 2階 コスモス4・5  
※ 上記の定期大会にむけて、各支部、病院組合分会等においては、代議員を選出し、11月16日(金)までに報告をお願いします。

# 60歳以降の総生活費予測 最低8,200万円時代

定年に必要な生活資金は・・・

〈モデル〉

A夫 40歳(S47年9月生まれ)  
平均寿命80歳  
奥様 37歳(S50年9月生まれ)  
平均寿命85歳  
奥様1人の生活費は夫婦  
生活費の70%とする。

夫婦の老後の生活費予測

〈1か月の平均支出内訳〉

※総務省統計局「家計調査報告」から

食費	61,763
住居費	16,096
光熱水道費	20,813
家具・家事用品	9,316
被服・履物費	6,933
保健医療費	15,209
交通・通信費	22,279
教養娯楽・教育費	25,782
その他(交際費等)	57,955
税・社会保険料等	30,064

合計 266,210円

セカンドライフの総生活費予測

①夫婦2人の期間

26,62万円×12か月×20年  
≒ 6,389万円

②奥様1人の期間

18,63万円×12か月×8年  
≒ 1,788万円

合計 約8,200万円



## お金を貯めるための10の質問

◆YESかNOのどちらかに○印をつけてください。

質問項目	YES	NO
1 外食でクレジットカードは使わない。		
2 家計簿(支出メモ等含む)をつけている。		
3 預貯金残高を(だいたい)把握している。		
4 ATMの時間外手数料を払うことは、ほとんどない。		
5 財布の中に入っている金額を把握している。		
6 住宅ローン(カードローン等含む)の残高を把握している。(ローンのない方はYES)		
7 年に1度は家計の分析をしている。		
8 毎年の預貯金増加額を(だいたい)把握している。		
9 年収と可処分所得の違いが(だいたい)わかる。		
10「給与天引き」や「口座振替」で積立てをしている。		

◆自己採点してください。(設問にはそれぞれ意味があります。)

YESが7個以上の人は、順調に預貯金ができている・・・  
YESが5～6個の人も、ある程度は預貯金ができているかも・・・  
YESが4個以下の人は、最近ほとんど預貯金が増えていない？

## 結婚費用は600万円

婚約から新婚旅行までの費用は、東海地区平均450.1万円。

そのほかに、2人の新生活に必要な家具・家電製品購入費用・引越し代金、家賃などの諸経費も別途かかるため、600万円程度が相場と言えます。

実際に必要な額は「いくらかけるか」で決まりますが、子どもへの援助として、一定の費用の予測をする必要があります。

## 教育資金の準備は 子どもが生まれてからスタート

幼稚園から高校までの教育に、いくらかかるでしょうか。文科省の調査では、教育費・給食費・塾・習い事などを合わせた学習費は、オール公立で約504万円、幼稚園と高校が私立の場合は約757万円

① 幼稚園(3年間)

①公立 66万円 ②私立161万円

② 小学校(6年間)

公立182万円

③ 中学校(3年間)

①公立138万円 ②私立384万円

④ 高校(3年間)

①公立118万円 ②私立276万円

⑤ 大学

①入学時までの必要費用200～300万円

※受験料・入学金・住まい費用・生活品など

②4年間の教育費が負担のピーク

私立文系 自宅650万円 自宅外950万円

私立理系 自宅950万円 自宅外1,100万円

公立 自宅500万円 自宅外800万円

## 年金受取り総額 シミュレーション

A夫 40歳(S47年9月生まれ)

厚生年金40年

奥様 37歳(S50年9月生まれ)

国民年金40年

A夫①65歳～67歳まで(3年間)

①老齢厚生年金 年120万円

②国民年金 年78万円

③加給年金 年39万円

②68歳～79歳まで(12年間)

①老齢厚生年金 年120万円

②国民年金 年78万円

奥様①65歳～76歳まで(12年間)

国民年金 年78万円

②77歳～84歳まで(8年間)

①国民年金 年78万円

②遺族年金 年90万円

合計 約5,400万円

60歳以降の「総生活費」から「年金受給総額」の差額から不足分を計算すると、約2,800万円となります。この資金準備のためには、①在職時の積立て ②退職手当 ③60歳以降に給与収入 ④配偶者の収入 ⑤節約・・・などの対応が考えられます。

ライフプランを考えるにあたり、「わが家のイベント」を確認しておくことが大切です。

特に、住宅ローンを組んだ後の資金ショートは家計にとって大きな負担となります。将来、どのような資金が必要になるか把握したうえで、「住宅取得」の資金計画と返済計画を立てておきましょう。